

2021年6月30日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部

教員研修 成果報告書 (Web 公開用)

1. 所属	生活科学部 食生活科学科
2. 職名・氏名	准教授 松岡康浩
3. 研修期間	2020年 4月 1日 ～ 2021年 3月 31日
4. 研修先機関 (国名)	Newcastle 大学 (英国)
5. 研修課題名	欧州におけるフードマーケティング手法の習得と日本食への認知度調査
6. 研修経過 (月単位で記載してください) 例) 4月上旬～5月下旬:	<p>4月 コロナ禍による英国のロックダウンのため渡航延期</p> <p>7月 ロックダウン解除を受け、失効したビザの延長手続き開始</p> <p>9月 延長ビザ取得、渡航準備開始</p> <p>10月 渡英。事務方とメールでやり取りし、ID やメールアドレスを取得。受入先の教授と共同研究についてのディスカッションを ZOOM で開始</p> <p>10月下旬 英国の感染状況が悪化し、再度ロックダウンするとのアナウンスがあったため、予定を変更し急遽帰国。</p>
7. 本研修で得られた成果等 (論文・学会発表含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に関して日英の消費者が抱える懸念のリストアップ ・共同研究テーマ設定のためのブレインストーミング ・研究テーマの設定と研究計画のディスカッション ・関連文献、各国の関連法規制の調査とまとめ ・マーケティングリサーチ会社のリストアップと費用概算 ・本調査に向けた事前調査
8. 所感	<p>世界の多くの人々が影響を受けたのと同様に、新型コロナウイルス感染症により、当初の予定していたことのほとんどを実施することができず、大変残念であった。しかしながら短い期間ではあったが渡英することによって、受入先の教授と ZOOM で対面し、連絡を継続できたことは今後に渡って有意義である。</p> <p>待機期間中に COVID-19 関連の情報を昼夜分かたず収集し、また実際にコロナ禍の英国に滞在中に感じた現地の人々の様子や考え方から、日英の国のあり方を考える貴重な経験になった。</p>